

決定版 翻訳力錬成テキストブック

英文を一点の曇りなく読み解く

柴田 耕太郎 著 A5・650頁 定価(本体9,800円+税) ISBN978-4-8169-2667-9 2017年6月刊行

学習過程・実践経験・翻訳指導を通じて 実践養成に役立つメソッドを伝授

- 「翻訳力錬成テキストブック—柴田メソッドによる英語読解」(2004.4刊)を全面改訂した決定版です。
- 厳選された100の課題文を、一字一句おろそかにせず分析。訳文作成の段階・過程(原文に即した訳文→モデル訳文→サンプル訳と訂正)も公開。また、課題文中の重要表現や基本文法事項を翻訳者の視点で実践的に詳述しました。
- 「思い出の語学人」「お勧めの参考書」「望ましい高等英語教育」「翻訳業界」「音読に耐える訳文」など、プロを目指す学習者にとって興味あるコラムも掲載しています。

【著者プロフィール】

柴田 耕太郎 しばた・こうたろう

翻訳家・翻訳教育者・経営者。早稲田大学第一文学部卒。岩波書店勤務、仏留学を経て、演劇活動。翻訳業界で40年。(株)DHC取締役、(株)アイディ代表取締役を経て、現在アイディ『英文教室』主宰、獨協大学外国語学部・東京女子大学非常勤講師。自らも演劇・映像・出版・産業界各分野で実績ある翻訳家であり、出版翻訳者を40人以上デビューさせた翻訳教育者でもある。『英文翻訳テクニック』(ちくま新書)など著訳書十数冊。

アイディ『英文教室』 <http://www.wayaku.jp>

各課題の文法的テーマ (抜粋)

第一部 論理的な文章を読む (文の論理の流れをつかみ、等価の日本語にすることを心掛ける。)
具象名詞の抽象化/抽象名詞を具象化する/論理はどう組まれているか/フレンドは友人でない/読点の役割をするカンマ/that節の掛かり方/二つの比較級をどこで切って読むか/文修飾と語修飾/強意のshould/普通名詞の固有名詞化/文のつながりと切れ目に注意/it ~ toを見落とさない/原因・根拠の前置詞/no more A than Bの変形……

第二部 感覚的な文章を読む (筆者の気分に乗る。直感面と語法面をすり合わせてゆく。)
セミコロンの役割/whoeverはanyone whoに置き換える/agreeは契約を合意する/color the grassesを「色めがねで」視てはいけない/the+形容詞が具体的なものを指す/should have p.p.に二義あり/掛かるものが離れたところにあるonly……

第三部 平明な文章を読む (やさしいことはあいまいにもつながる。訳者の解説や補足が場合により必要。)
二つのifは偉さが違う/wrongの多義性に注意/過去の習慣をあらわすif節と帰結節/only laterとwhen ~は同格/moreoverの訳を工夫しないと論理が続かない/she had seenの時制に注目/accompanyは「…が付く」か「…に付く」か/inの並列に注目/psychologicallyは「心理的に」でよいか……


第四部 学術的な文章を読む (事実関係をしっかり調べる。それで語法面での捉え方を決めてゆく。)
知識人独特の韻味を読み解く/コロンが詳細を、セミコロンが対照を示している/as Europeans goをどう訳す/horrorにaがついて具体化される/not reallyは部分否定/noで列挙される名詞群を文に復元するとどうなる/puritanicalをそのまま訳して良いか/固有名詞は意味を調べた上で訳をつける/shove people offは何の例えか/in peace-timeとeven when ~は同格か挿入か/earlyは初期の、ではない/asの訳し方に注意……

第五部 難解な文章を読む (凝縮した名文は一つの解釈しか許さない。文法面から厳密に迫ってゆく。)
しりとり文の典型/ふたつのダッシュの意味するもの/多義のshouldを吟味/何と比べてworseなのか/ことばの言い換え/andが結ぶもの/文脈からmoveの適訳にたどりつく/演説口調で訳したい/enoughの掛かり方に注意/独特の比喩が使われている/著者の論理に乗っかる/他動詞の現在分詞形の形容詞がくせもの/in oppressed countriesはどこに掛かるか……

2017.5

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	決定版 翻訳力錬成テキストブック —英文を一点の曇りなく読み解く	冊
		定価(本体9,800円+税) ISBN978-4-8169-2667-9	
		 9784816926679	

課題

4-1

試練に立つ文明

——知識人独特の韜晦を読み解く

My view of history is itself a tiny piece of history; and this mainly other people's history and not my own; for a scholar's life-work is to add his bucketful of water to the great and growing river of knowledge fed by countless bucketfuls of the kind. If made at all illuminating, or indeed in its origin, growth, and social and personal setting.

Arnold Joseph Toynbee

1889-1975

イギリスの歴史家。オックスフォード大学教授(1919~24)を経て、王立国史院の歴史を文明の興亡の視点から論じた12巻(1934~61)が代表作。国家中心の歴史で「退と復帰」の理論を展開。また文明崩壊の歴史の史家の政治的、経済的決定論に対する。本文は一般向きの歴史啓蒙書である(1948)の冒頭部分。

[課題 4-1 構文分析と解説]

¹<My> ²<view of history> is ³<itself> ⁴<a tiny piece of history> ⁵<; and> ⁶<this> mainly ⁷<other people's history> ⁸<and> ⁹<not my own> ¹⁰<;> ¹¹<for> ¹²<a scholar's life-work is ¹³<to add> ¹⁴<his> bucketful of water to ¹⁵<the great and growing river of knowledge> (fed by countless ¹⁶<bucketfuls> of ¹⁷<the kind>). ¹⁸<If> ¹⁹<my individual view of history> ²⁰<is to be made> ²¹<at all> ²²<illuminating> ²³<, or indeed> ²⁴<intelligible>./ ²⁵<it> ²⁶<must be presented> ²⁷<in> ²⁸<its origin, growth, and social and personal setting>.

[課題 4-1 参考訳とモデル訳文]

原文に即した訳

私の歴史観はそれ自体が、歴史学のささやかな一個である。そしてこれは主として他の(歴史家の)人々の(つくってきた)歴史学であって私自身の歴史学ではない。というのは、学者の生涯を貫く仕事は自分のバケツ一杯の水を、そのような類の無数のバケツに入った水に養われた、知識という増量する大河に加えることであるからだ。私の個人的な歴史観がいやくも人を啓蒙するようなもの、いや本当のところ人が理解できるものにされるには、私の歴史観はその始まり、成長、そして社会的・個人的背景というもの形で提示されねばならない。

モデル訳文

私の歴史の見方そのものが一個の歴史学であるとはいえよう。だが学問としての歴史総体は多くの人たちが築いてきたもので、私ひとりのものではない。そもそも学究の生涯を貫く仕事は、他の数知れぬ人たちに倣って、知識溢れ浸す大河にバケツ一杯の水を注ぐことなのだ。私の歴史観が人の足元を照らすだけのもの、いや少なくとも理解してもらえだけのものになるには、それを培った社会的・個人的環境を交え、形成の軌跡を示さねばなるまい。

サンプル訳と訂正

私の歴史観はそれ自体が小さな一片の<歴史>である。しかもこの<歴史>とは主として他の人達の<歴史>であって私自身の<歴史>なのではない。というのも学者のライフワークとは、長大にして成長しつづける知識の川に自分の水をつぎたす事であるが、この川には多数の学者によって大量の水が供給されているからである。若し<私自身の>歴史観が<輝いたもの>、<或いは理解できるもの>、<社会的・個人的背景を有するもの>として提示されねばならない。

「トインビー史学」「トインビー史観」

文体と文脈に訳語を合わせる

片の」「一件の」「一個の」「一つの」(ある部分)に比べ、個としての独立した部分の

「ささやかな一個の歴史学」
「し。ここではandと併せ、敷衍「その」ともなりうる

されている
「この歴史家が意識されている
「my own (history) を並列

三つの意味を持つ。(1) my own car
「one's own doctor (自主性)「病は自

て敷衍
「言うかという」と

「aは(1)一つ、という数に力点(2)の二つの要素を内包するが、この場合は「ライフワーク」として誤差があるのを承知のこと

である」。to不定詞の名詞的用法で、
「決定・可能・義務・命令・運命を示

各界から届いた推薦文

■翻訳業界から

東郁夫 株式会社翻訳センター代表取締役、日本翻訳連盟会長

「プロならばこう翻訳する。入念な解説と例文の数々が教えてくれる必読の一冊です」

原田毅 株式会社ホンヤク社代表取締役、日本翻訳協会理事・副会長

「日本の翻訳教育史上、柴田氏の名なくして最早、語ることはできません!! 翻訳立国日本への貢献にこの名著は不可欠の一冊です」

山本千雅子 グラデュウス・マルチリンガルサービス株式会社代表、工学博士(北大)

「翻訳者に求められる『技術』とは? 英語の法則に従って、既存の知見とは「ちがう」最新情報が詰った原稿を、「まちがいない」読み解くこと。そうした翻訳者に必須の一冊です」

岡田壮平 字幕翻訳者

「100点を取れる器用なアマチュア翻訳家は大勢いる。だがこの本を読めば130点を取れる真のプロになれる!」

白川貴子 出版翻訳者

「英文解釈の勉強法はいろいろありますが、日本語でどう表現するかという視点を踏まえた徹底した構文分析は、他では学べないでしょう」

深尾隆三 技術翻訳者、工学博士(阪大)

「基礎英語の学習を失しがちな技術系の人にこそ是非お奨めの本です。感度の高い方なら効果は絶大でしょう」

■教育業界から

府川謹也 獨協大学教授、英語学

「大学英語教員が本書をテキストに使い、著者の目指す『翻訳教育』が広がってゆくことを期待します」

中澤一 MSA マスターシードアカデミー主宰、ベストセラー「単語王」著者

「柴田先生の声が聞こえてくるような解説。何度も読み返し、これが自分の血肉になると思い興奮しています」

栗原雅幸 駿台予備学校講師

「柴田先生ほど精緻に英文を読み解き明かしてくれる人を私は他に知りません。本書にはそのエッセンスが詰っています」

■出版業界から

佐藤陽二 研究社編集部

「『なぜウチで出せないんですか!』」グラを見た一声。英語の読み方と教え方を熟知する者だけの職人芸だ」

竹内カンナ ニュースウィーク日本版エディター

「原文との距離の取り方に迷っていたところに受けた柴田先生の授業を思い出しました。座右の書になりそうです」

中上千里夫 株式会社工作舎会長、日本翻訳出版文化賞受賞

「グローバル化し、多文化が日常的に交差する今、知的好奇心に満ちた、国際化時代の教養人のための珠玉の書」

井崎正敏 評論家、元筑摩書房編集部長

「英文解釈の往年の名著を彷彿させる精緻な分析、達意の訳文をつくるテクニック、両者を兼備した稀な語学書」

■ビジネス業界から

安部由紀子 国連開発計画(UNDP)広報官

「英文解釈、翻訳はこつこつ勉強することで力をつけられます。この本はまさにその良い教材となるでしょう」

片山由美子 国際弁護士

「柴田先生の濃密かつ繊細な授業内容が凝縮されたこの本は、あらゆる英語学習者の座右の書になると思います」

山田伸幸 三井不動産リアルティ(株)国際事業部顧問、MBA

「ここまで精緻に読み込んで初めて英文が読めたと言える。ビジネスで英語を使う方の枕頭の書としてお奨めします」